

# サツマイモ基腐病の汚染圃場における休耕の効果

1年間の休耕処理は土壤中の残渣量と基腐病菌密度を低減させ、休耕後の土壤消毒は連作後よりも発病抑制効果が高い

## 背景・目的

- ・汚染圃場での発病程度は、本病の一次伝染源である土壤中の罹病残渣量に左右される
- ・基腐病が多発した圃場での防除対策として、残渣の持ち出しや土壤消毒を推奨しているが、実施が難しく、効果が不安定
- ・発病度の高い圃場は、休耕を推奨しているが、客観的な効果は検証されていない
- ・本病の汚染圃場に1年間の休耕処理区と連作区を設け、土壤中の残渣量と菌密度の推移を明らかにする

## 成果の内容

- ・1年間の休耕処理により、土壤中の残渣量と基腐病菌数が減る
- ・休耕後の土壤消毒は、連作後の土壤消毒より発病抑制効果が高い

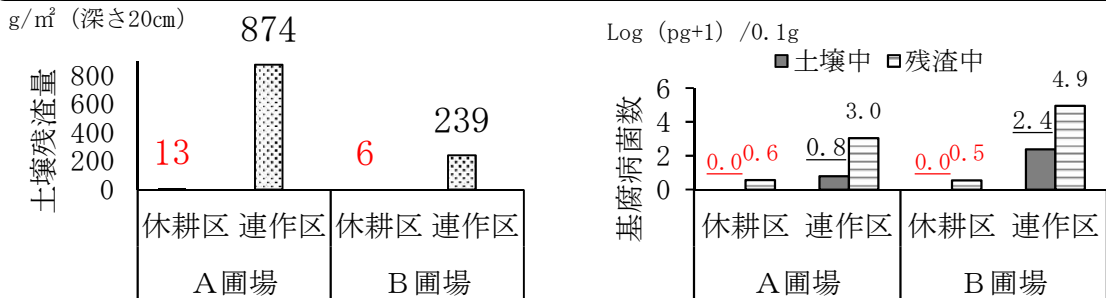


図1 土壤消毒前(R4年)の土壤残渣量 図2 土壤消毒前(R4年)の基腐病菌数

注1) 図1, 2ともに、2年前の基腐病の発生(R2年)は、A圃場, B圃場ともに多発生  
 2) 図1, 2ともに連作区の基腐病の発生(R3年)は、A圃場が多発生, B圃場が少発生

表1 休耕および連作後の土壤消毒による基腐病への防除効果

試験区		調査株数	発病株率 (%)	2 m 畝間		
				発病箇所数	調査塊根数	発病塊根率 (%)
A 圃場	休耕区	180	5.6	5.3	56	0
	連作区	180	36.1	28.7	65	8
B 圃場	休耕区	180	5.6	7.7	53	0
	連作区	180	22.8	17.7	40	3.3

注1) A圃場, B圃場ともに試験区の基腐病発病履歴は図1, 2と同じ  
 2) R4年の栽培で、A圃場は土壤消毒のみ、B圃場は土壤消毒と地上散布(アミスター20FL→Zホルト®→アミスター20FL)実施  
 3) 土壤消毒は、A, B圃場ともにバスアミド微粒剤の被覆処理を定植前(R4年3月)に実施  
 4) 品種: シロユタカ

## 期待される効果

○休耕は基腐病の汚染圃場における「残さない」対策技術のひとつとして有効

○活用面

- ・基腐病発生圃場での残渣量, 基腐病菌密度の低減による圃場の回復
- ・有機栽培圃場での基腐病対策

○「持ち込まない」, 「増やさない」対策と組み合わせた総合防除は必要

○普及対象・範囲 サツマイモ産地の技術員 (農業普及指導員, JA営農指導員等)

鹿児島県農業開発総合センター  
 生産環境部 病理昆虫研究室